

第23回 日本時間生物学会学術大会および JSC国際シンポジウムのお知らせ

第23回日本時間生物学会学術大会とJSC国際シンポジウムを2016年11月11日から13日の3日間にかけて、名古屋大学のシンボルでもある豊田講堂で開催いたします。学術大会は「生物を理解し、制御する」をテーマとして、世界の最先端で活躍されている研究者を交えて活発な議論が繰り広げられることを期待しています。また、国際シンポジウムは“Towards understanding the molecular clockwork”と題して、時計の発信機構の本質について考える機会となることを期待しています。当日は全てのイベントを豊田講堂の中で実施しますので、天候や移動を気にすることなく、講演、議論をお楽しみいただけたらと思います。皆様のご参加を心待ちにしております。

第23回日本時間生物学会学術大会
大会長 吉村 崇

(名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所)

【大会概要】

会期：2016年11月11日 JSC国際シンポジウム

2016年11月12日～13日 第23回 日本時間生物学会学術大会

会場：名古屋大学 豊田講堂（名古屋市千種区不老町）

参加登録・演題申し込み：6月上旬よりホームページで登録受付開始予定

【プログラム】

2016年11月11日（金）

International Symposium on Biological Rhythms “Towards understanding the molecular clockwork”

Plenary lecture: Steve Kay (The Scripps Research Institute, Nagoya University)

Aschoff-Honma Prize lecture: Johanna Meijer (Leiden University)

Confirmed invited speakers:

Yoshitaka Fukada (University of Tokyo)

Susan Golden (UC San Diego)

Takao Kondo (Nagoya University)

Achim Kramer (Charité - Universitätsmedizin Berlin)

Ueli Schibler (University of Geneva)

Hiroki Ueda (University of Tokyo)

2016年11月12日（土）～13日（日）

第23回 日本時間生物学会学術大会

12日（土）

特別企画シンポジウム：「基礎と応用の融合」

井澤毅（東京大学）「人工環境から、自然環境へ－野外におけるイネの体内時計の重要性－」

廣田毅（名古屋大学）「化学と生物学の融合による時間生物学研究」

岡村均（京都大学）「基礎研究と臨床医学とのインターフェースとしての時間」

特別講演 I

伊丹健一郎 (名古屋大学) 「合成化学と植物科学・時間生物学の融合で価値ある分子を」

特別講演 II

柳沢正史 (筑波大学) 「睡眠覚醒の謎に挑む」

シンポジウム1 「時間医薬研究の動向と成長戦略2016」

座長：土居雅夫 (京都大学)、本間さと (北海道大学)

本間研一 (北海道大学) 「概日リズムを用いた双極性障害の臨床診断」

大戸茂弘 (九州大学) 「時間薬理学の進歩と現状: 最前線からの報告」

八木田和弘 (京都府立医科大学) 「概日時計の根本原理を用いた抗疾患プロトコルの実現性」

Gi Hoon Son (Korea University College of Medicine, Korea) 「Chronomedicine researches in Korea」

土居雅夫 (京都大学) 「SCNはヒトの時間治療の新たな創薬の場となるか」

岡部隆義 (東京大学) 「東大創薬機構の理念と活動実績」

シンポジウム2 「光合成生物の細胞間の時間調整とその特性」

座長：中道範人 (名古屋大学)、遠藤求 (京都大学)

伊藤 浩史 (九州大学) 「正確で均一なシアノバクテリアー細胞概日リズム」

中道 範人 (名古屋大学) 「時計周期を調整する合成化合物」

遠藤 求 (京都大学) 「植物における非集中型の概日時計システムとその同調」

高橋 望 (Centre for Research in Agricultural Genomics, Spain) 「階層的な多振動子からなるネットワークがシロイヌナズナの概日時計を制御する」

ポスター発表

懇親会

13日 (日)

シンポジウム3 「精神疾患の病態研究～リズムと睡眠～」

座長：栗山健一 (滋賀医科大学)、肥田昌子 (国立精神・神経医療研究センター)

肥田昌子 (国立精神・神経医療研究センター) 「概日リズム睡眠障害の病態生理と治療反応性」

平野有沙 (University of California, San Francisco) 「時計遺伝子Per3のミスセンス変異による冬季うつ病と睡眠リズム障害」

安尾しのぶ (九州大学) 「季節が情動に及ぼす短期的・長期的な影響および中枢-末梢連関による制御」

吉池卓也 (滋賀医科大学) 「精神疾患における情動記憶の役割と時間治療学的介入の可能性」

元村祐貴 (国立精神・神経医療研究センター) 「睡眠の不調と気分調節機能とのかかわり、その神経基盤」

シンポジウム4 「昆虫の時間生物学：可能性と課題」

座長：吉井大志 (岡山大学)、志賀向子 (大阪大学)

瓜生央大 (筑波大学) 「ショウジョウバエから見る時計機構構築の仕組み」

志賀向子 (大阪大学) 「昆虫の概日時計が刻む様々な時間」

測側太郎 (京都大学) 「個体間の相互作用等による概日時計の「非光」的調節」

石川由希 (名古屋大学) 「ショウジョウバエは求愛歌のもつ種特異的な時間パターンをどのように“理解”しているのか」

後藤慎介 (大阪市立大学) 「昆虫の環境適応における概日時計の役割」

シンポジウム5「動物の多様なリズムとその応用」

座長：廣田毅（名古屋大学）、羽鳥恵（慶應義塾大学）

影山龍一郎（京都大学）「短周期遺伝子発現リズムの動作原理と意義」

新村毅（基礎生物学研究所）「メダカにおける季節変化への適応機構」

羽鳥恵（慶應義塾大学）「メラノプシン発現網膜神経節細胞の光情報伝達機構」

深田吉孝（東京大学）「海馬SCOPが制御する物体認識の長期記憶リズム」

宮脇敦史（理化学研究所）「生体機能の時空間的制御」

シンポジウム6「ノンレム睡眠、レム睡眠の切り替えのメカニズムとその機能」

座長：三枝理博（金沢大学）、山中章弘（名古屋大学）

三枝理博（金沢大学）「オレキシンによる睡眠・覚醒調節におけるモノアミンニューロンの役割」

小川景子（広島大学）「夢内容とレム睡眠の生理的役割の検討」

山中章弘（名古屋大学）「視床下部神経細胞による睡眠覚醒、睡眠関連機能の調節メカニズム」

林悠（筑波大学）「レム睡眠を制御する脳幹の神経ネットワークの同定と操作」

岸哲史（東京大学）「ヒト睡眠段階遷移のダイナミクス」

総会・奨励賞授賞式・受賞講演

優秀発表表彰式